

令和5年度 第4回 東近江市市民協働推進委員会 会議録

◆開催日時 令和5年6月19日(月) 19:00~21:10

◆開催場所 東近江市役所 319 会議室

◆出席者

市民協働推進委員 深尾 昌峰、辻 薫、小嶋 一浩、綾 康典、小島 秋彦

園田 由未子、藤澤 彰祐、藤 一道、奥田 新悟

水谷 友彦、若林 理恵、朝比奈 遥

(欠席：富田 由美子、小島 淳司、笠原 健司)

まちづくり協働課 嶋村、岡崎、西川、松居(事務局)

<委員長>

今回は、基本施策②及び③について、議論をしていく。事務局から説明をお願いする。

◆議題

(1)「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞について

<事務局>

資料1及び資料2について、説明を行う。資料1の募集要項については、昨年度御意見をいただいた箇所を反映した内容となっている。主に、「2 事業概要(2)募集の対象」の「以下の要件にあてはまらないこと。」の部分である。また、昨年度まで中学生が選ぶ協働大賞の選考を行っていたが、依頼する中学校が一周したこともあり、今年度は、高校生が選ぶ協働大賞として実施したいと考えている。八日市南高校に「地域支援活動部」という部活動があり、地域に密着した活動を行っていて、そちらに依頼する予定である。

わがまち協働大賞の今年度の募集期間は、令和5年7月1日から同年8月21日までとしている。「4 選考基準」については、昨年度点数配分について御意見をいただいたが、こちらについては今後の委員会で検討していきたい。また、市民投票について、今年度2箇所場所を変更する予定である。1箇所目は、昨年度までマーガレットステーションとしていたところをi-martに変更する。イトインスペースを借りて、投票を行う予定である。2箇所目は、昨年度まで永源寺図書館としていたところを道の駅奥永源寺溪流の里に変更する。いずれも、昨年度の投票数が少ないため、より得票を見込めそうな場所に変更するもの。

表彰式については、今年度は、令和6年2月23日に開催する。場所については、要項に記載されていないが、能登川コミュニティセンター及びやわらぎホールで開催予定である。

<委員長>

今年度のわがまち協働大賞募集要項について、事務局から説明があったが、修正点や御意

見などいかがか。

<委員>

3票までというのは、3事業に投票できるということか。

<事務局>

お見込みのとおりである。

<委員>

「2 事業概要（2）募集の対象」について、個人的な考えになるが、本来の協働事業について、「まちづくり」が根底にあるのではないか。そう考えると、自分の信条を伝えることが宗教活動に当たるし、「こんなまちにしたい」と訴えることも政治活動の一部になると考える。「特定の」という文言を、来年度以降は入れてほしい。

<委員長>

一般的な表現に変更してはいかがか。

<委員>

市民投票について、一人3票というのは多いような気がする。一人2票でもよいのではないか。

<事務局>

一人「最大3票」ではいかがか。

<委員>

前年度の委員会で、一人複数票の提案をしたが、一つのところだけに集中してしまうのをばらけさせたいという意図で発言した。そのため、3票「まで」だと意味が無いと感じている。規定数投票されていないと無効票という扱いにしてはどうか。

<委員長>

御意見を踏まえて、今年度は、「一人2票」でいかがか。

<委員全員>

異議なし。

<委員>

前年度感じていたのが、ある事業について、別の委員がヒアリングするともっと協働についての取組が掘り下げられたのではないかということ。例を書くと協働の取組として思いつきやすいのではないだろうか。応募用紙には、どうしても「どれくらいすごい事業をしているか」を書きがちになる。

<委員長>

比較的ゆるやかな、エントリーしやすい形で、吹き出しで注釈を書くなどしてもよいかもしれない。それであれば、先ほど言われた他薦の問題もクリアになると思う。

<委員>

パワーポイントで、フリー素材を用いて作成するとよいのではないか。

<委員>

これをしたことで、近所の人が野菜を持ってきてくれるようになったなど、そういった例を入れると良いかもしれない。

<委員>

出てきた他薦の応募用紙に、推薦したいポイントが少なければ、聞いてみてはどうだろうか。

<委員長>

ヒアリングして、応募用紙に追記すると良いかもしれない。

<委員>

他薦の時、資料が少なくて判断に迷う時がある。実際にやってみるのは難しいかもしれないが、ヒアリングを一次選考より前にすれば、ヒアリングして知ることもできる。ただ、エントリー数が多いと大変かもしれない。ヒアリングに行く委員の数を、2名から1名にしてはどうか。

<委員長>

ヒアリングを0次選考にするのも一つか。

<委員>

選考期間が長いので、最終選考の時には、一次選考で話していた内容を思い返さないといけない。

<委員>

一旦選考して点数をつけるか・・・一日で終わるならよいが。

<委員>

一人でヒアリングに行くのは負担に感じる。これまでも、二人でヒアリングし、聞き役と書記役に役割分担してやっとならせていた。

<委員>

応募用紙の補足をしてくれる役目の人がいるといいのだが。他薦の応募用紙はざっくりし過ぎている。

<委員>

自薦と他薦で応募用紙の様式を統一すれば、同じレベルで見ることができるのではないかと。他薦については事務局がヒアリングしてサポートしてみてもどうか。

<委員長>

応募用紙を見て弱そうなものにはアプローチして補足してみてもどうか。いろいろと御意見をいただいたが、今年度までは今のスタイルでいきましょう。来年度は見直しということで、今回の要項は、要件の表現の仕方、書き方ガイドを添える、市民投票は一人2票、他薦は団体にヒアリングして補足する、という点を修正ということをお願いしたい。

## (2) 市民協働推進計画の見直しに向けて

<事務局>

基本資料2について説明。委員から頂いた「コミュニティ・スクール」の資料についても紹介する。

<委員長>

「積極的に委託」という部分について、具体的に記載してもよいかもしれない。尼崎市では、補助金事業の委託提案を受け付けるようになった。

<委員>

「積極的な委託」というのは、市が委託するという認識で良いか

<委員長>

そうである。もう少し制度化し、円卓会議との接続ができればと思う。提案型補助制度に

については、今は東近江市にある制度なのか。どんな制度のことを指しているか。

<事務局>

今の時点では、提案型補助制度は、無い。市民と行政のアンマッチを防ぐ制度と考えている。補助金を受けたい事業があっても、制約があって受けることができないといった声を聞くことがある。

<委員長>

来年度予算の説明を市民へ行う必要がある。ラウンドテーブルの接続にもつながる。

<委員>

まちづくりネット東近江に、用途指定型寄附があるといいのだが。

<委員>

あることはあるのだが、採択された団体のみである。随時受付は、行っている。

<委員>

NPOの法人格を取るのは、ハードルが高い。補助金ではなく寄附で子どもたちに応援の気持ちを伝えなかった。

<委員長>

にじまちサポーターズの基盤作りを入れてもよいと思う。応援していかないと、なくなってしまう。

<委員>

前回、基本施策2ではクラウドファンディングについての記載があったが、今回の資料から抹消されている意図は何か。

<事務局>

優先順位の関係で省略した。

<委員長>

今の段階では、抹消せず出た意見は残しておいた方がよい。

基本施策2については、意見は以上ということによいか。次、基本施策3について事務局から説明願う。

<事務局>

基本施策3について、説明を行う。

<委員>

冒頭の「連帯感」という言葉を、「つながり」に変えてはどうか。その次の「1 自治会活動の推進」にある「絆」という言葉も気になるが。連帯感と書かれると、責任を持たないといけないのかと負担に感じてしまう。

<委員>

「世帯回覧等へのインターネットの活用を支援」とは、どういったことか。

<事務局>

LINE や結ネットを利用した回覧の取組を想定している。

<委員>

支援というのは、お金についても支援するということか。結ネットは、有料だったと思う。我が家もそうだが、世帯分離していると、回覧板は見ないうちに次の家に回っていることがある。

<委員長>

私がいる自治会では、「10 年後はできないだろうな。」と思うことを話し合ったりしている。夏祭り一つとっても、消極的に行うか、空中分解していつてしまうかもしれない。地域の実績や中身を考慮した上で一緒に考えていくのが支援だと思う。

<委員>

昨年度から自治会の役が当たっているが、自治会活動に消極的な人をどうするかという問題がある。自治会から脱会させてほしいという相談をいろいろと受ける。アパートの住民はだいたい自治会に加入していないが、我々自治会がその周囲を清掃している。

<事務局>

コロナ禍における国からの支援ということで、市では「自治会活動再開支援補助金」という補助金を自治会に支給した。しかし、自治会からは、コロナ禍で事業を停止していることもあり、使いようがないという声もあったため、アンマッチを感じる。

<委員>

PTA など、役割が多い。自分が働いていても関係なく役が当たる。任意で加入している団

体だからこそ入りたくなるようなモデル自治会はないものだろうか。

<委員長>

自治会だけではなく、まちづくり協議会も同じ問題に直面している。

<委員>

先週地域の祭りがあったが、そこで出会った人と顔見知りになる。そうすると、次の日会った時挨拶したりする。

<委員>

転入すると、猶予期間無く自治会に加入させられると負担を感じてしまう。

<委員>

自治会の役が当たるのは避けたいが、イベントに参加するのは負担に感じないだろうか。

<委員>

転入者に対して優しさがあれば良いのだが。

<委員長>

移住的に転入してきて3～4年経つと、顔なじみになっている。今から思うと、猶予期間を設けてくれていたのかもしれないが。

<委員>

私の住む自治会では、空家調査がこの前あった。自治会費も、最近では口座振込になっているところもあるようだが、集金も見守りのうちの一つになっていると感じた。近所の様子に気づくのにかかると時間がかかる。

<委員長>

もし、自治会サービスを控除する代わりに税金に上乗せするとした場合、市民は賛成するだろうか。政策としてはあり得るが、受け入れられるのだろうか。地域にもよるが、おそらく断られるだろう。

<委員>

民主主義だけで進めると、うまくいかないと思う。

<委員長>

支援している側ではあるが、実際困るのは行政だと思う。

<委員長>

まちづくり協議会の支援について、意見が出ていないが、いかがか。

<委員>

私の所属するまちづくり協議会では、今まさに支援する地域経営の主体への移行を進めている。私自身もよそから来ているので今まで出ていた意見もよく分かる。出来上がっている組織だと、面白くないだろうと思う。決まってしまうことに対しては消極的になるが、自分から手を挙げたことは、やっていて楽しいであろう。私も学校の読み聞かせボランティアに参加しているが、自分から参加したことは、やはりやっていて楽しい。

<委員>

自治会もそうだが、まちづくり協議会もボランティアでやっている。以前、会長に給料をとらないのか聞いたら、「ボランティアでやっている。」と言われた。

<委員>

「協働委託の拡充」について、「1 資金の調達」の所に記載されているが、協働のしくみづくりの方に動かした方が良いのではないだろうか。

<委員長>

提案型でペイされるのもよい仕組みだと思う。この部分は、次回議論できれば。

私の住んでいる場所では、自治会が無いが、住民はうまくやっている。最初は、行政から自治会を立ち上げるよう言われた。自治会が無いと、地域の地蔵盆も呼んでももらえない。そうすると子どもたちが自分で祭りを立ち上げるようになった。そういった部分も後方支援できれば。

<事務局>

- ・今日の意見をまとめた資料を、後日送付する。
- ・まちづくりネット東近江が校正した市民協働推進計画のサンプルについて説明
- ・令和4年度各地区まちづくり協議会の取り組みについての冊子を紹介
- ・次回令和5年度第4回市民協働推進委員会：7月20日（木）午後7時から

午後9時10分会議終了